



日本臨床発達心理士会 九州・沖縄支部
ニュースレター 第22号 (2019.3)

春色のにぎやかな季節、支部会員の皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度、支部の重点目標をアセスメント能力の向上と定め、昨年度に引き続き WISC-IV 知能検査を取り上げ、大六一志先生をお招きしてアセスメント研修を開催しました。また、事例検討会は佐賀地区で 2 回、長崎地区で 1 回、福岡地区で 1 回、計 4 回開催しました。地域毎に企画・運営し、少人数で討議することによって会員同士が徐々に顔見知りになってきています。今後、地域のネットワークに発展していくことを期待しています。これまでに開催された研修や事例検討会の企画・運営に当たっては研修担当役員や地区研修委員をはじめ会員の皆様に変な御尽力をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。次年度はまだ開催できていない地域へ広げていくこととなります。実現には各地域の会員の皆様のご協力が必要となります。

また、第 15 回全国大会は 9 月 28 日（土）、29 日（日）の二日間、九州産業大学にて開催されます。堀内支部長を委員長とした準備委員会が既に発足し準備を進めています。ここでも多くの支部会員の皆様が集い知恵を出し合っています。

次年度からは公認心理師が医療・保健、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野で活動を始めます。私たちの臨床発達という専門性はいずれの分野にも必要とされる重要な視点です。しっかり協業するためには私たちの職能をより確かなものにしておく必要があります。今後の支部活動が皆様の主体的な研鑽に寄与できるよう企画して参りたいと考えていますので、皆様のご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

さて、今号では、今年度の資格更新研修会の報告、次年度の活動計画についてお知らせいたします。5 月 11 日（土）には支部総会を予定しますので、皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

News 1 資格更新研修会の報告

1. アセスメント研修会

知能検査と発達支援～WPPSI-III、WISC-IV、WAIS-IVを中心に～

日 時：2018 年 11 月 18 日（日）10：00 ～ 17：00

会 場：リファレンス駅東ビル V-1 室（福岡市博多区）

講 師：大六 一志 氏（日本臨床発達心理士会茨城支部長）

研修要旨：臨床発達心理士の役割として適切なアセスメントをできることが求められていることをふまえ、本研修では、幼児期、学齢期、成人期において活用されている知能検査、WPPSI-III、WISC-IV、WAIS-IV について取り上げた。WPPSI-III、WAIS-IV については、検査の基盤となる理論から使用方法、検査の限界等を学習した。WISC-IV については、事例を取り上げ、その検査結果から対象児者の評価、見立て、報告等の方法について学習した。

取得ポイント：2 ポイント 参加費：6,000 円 研修参加者：62 名

2. 支部主催資格更新研修会

アタッチメントと発達臨床

日 時：2018年5月26日（土）14：00 ～ 17：00

会 場：リファレンス駅東ビル Y-1 室（福岡市博多区）

講 師：島 義弘 氏（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

研修要旨：本研修では、アタッチメント（愛着）の基本的な概念整理を行うとともに、最近の研究をレビューした。発達の最初期に、重要な他者に“くっつく（attach）”ことができるという事実によって他者との関係の中に育まれるアタッチメントが、やがて他者から離れることの基盤となるという逆説的な関係から、人の発達について考察した。最後に、アタッチメントの視点に基づいた発達臨床の意義や課題について検討した。

取得ポイント：1ポイント 参加費 1,000円 研修参加者：62名

3. 共催資格更新研修会

（共催団体）一般社団法人日本発達障害ネットワーク、日本発達障害ネットワークかごしま

JDD ネットワークセミナー in かごしま 2018

（午前：基調講演）気になる子への教育的配慮

（午後：シンポジウム）知って得する多職種活用

日 時：2018年7月29日（日）10：00 ～ 16：30

会 場：鹿児島国際大学 4号館4階421号室

講 師：（基調講演）竹田 契一 氏（大阪教育大学名誉教授）

（シンポジウム）座長：岡田 洋一 氏（鹿児島国際大学福祉社会学部）

ファシリテーター：橋口 亜希子 氏（JDD ネットワーク事務局）

研修要旨：発達障害について理解を深め、より適切な支援を目指して当事者・親・支援者への学びの場を提供した。セミナーをJDD会員以外の方にも広く公開することで、周囲の理解を得るための啓発活動とした。発達障害者支援法の改正により『ライフステージを通じた切れ目ない』支援の重要性が明確にされた。様々な専門職種が関わる機会の多い発達障害支援では、多職種の『連携』はとても重要な課題である。

午前は基調講演とし、JDD理事であり特別支援教育士資格認定協会理事長の竹田契一先生より、『気になる子の教育的配慮』と題してご講話いただいた。午後のシンポジウムでは、昨年12月のセミナーから引き続いて鹿児島のこれからの多職種連携を考える場とし、『知って得する多職種連携』のテーマで、鹿児島県で活躍している専門職種の方々からの実践報告や抱えている課題について意見交換した。

取得ポイント：1.5ポイント 研修参加者：18名

（共催団体）北九州市、社会福祉法人北九州市福祉事業団、北九州市発達障害者支援センター「つばさ」

発達障害者の家族支援を考える

（基調講演）自閉症スペクトラム当事者が考える、強みを生かす支援とは

（シンポジウム）個性に寄り添う支援とは～当事者からのメッセージ～

日 時：2018年10月21日（日）10：00 ～ 13：00

会 場：黒崎ひびしんホール 中ホール（北九州市八幡西区）

講 師：（基調講演）小道 モコ 氏（自閉症スペクトラムから考える会「くれよん」）

（シンポジウム）コーディネーター：シャルマ 直美 氏（福岡県臨床心理士会）

コメンテーター：小道 モコ 氏

研修要旨：発達障害者支援法や障害者差別解消法の施行以降、地域での支援体制や社会的な理解は進みつつあり発達障害児者を取り巻く環境は変化しているが、その支援は未だ十分とは言えず様々な困り感を抱え生活している人は少なくない。本研修会では、自閉症スペクトラムから考える会「くれよん」に所属し当事者として各地で講演を行う小道モコ氏の基調講演「自閉症スペクトラム当事者が考える、強みを生かす支援とは」と、後半は「個性に寄り添う支援とは～当事者からのメッセージ～」と題して2名の当事者が加わり、自身の体験から得られた自身への気づきや上手く生活する工夫を報告し、討論した。

取得ポイント：1ポイント 参加費：1,000円 研修参加者：16名

(共催団体)九州心理学会第79回大会シンポジウム

発達障害のある子どものキャリア発達支援を考える

日時：2018年12月2日(日) 13:30～16:30

会場：長崎大学文教キャンパス グローバル教育棟・スカイホール

講師：(司会) 田山 淳 氏(長崎大学)、藤原 和政 氏(長崎外国語大学)

(話題提供) 熊本 由以子 氏(佐世保中央高等学校)

奥野 由美 氏(長崎発達支援親の会のこのこ)

内野 成美 氏(長崎大学大学院教育学研究科)

(指定討論) 蒲田 紀孝 氏(長崎県教育庁特別支援教育課)

吉田 ゆり 氏(長崎大学教育学部、九州・沖縄支部幹事)

研修要旨：発達障害のある子どもが、自立し社会参加できるための能力や対処方法を身につけるとともに、職業適性を幅広く切り開くことができるような指導・支援の実施が求められている(中央教育審議会, 2011; 文部科学省, 2017)。このような現状において、実際にどのような指導・支援が実践されているのかを、親の会、学校現場、大学教育、それぞれの立場から話題提供し、発達障害のある子どものキャリア発達支援について今後のあり方を検討した。

取得ポイント：1ポイント 参加費：1,000円 研修参加者：14名

3. 事例検討会

佐賀地区第3回事例検討会

問題行動の統制に行動機能査定および

応用行動分析学の指導技法(分化強化)の適用方法を学ぼう(2つの事例を通して)

日時：2018年6月2日(土) 13:00～16:00

会場：佐賀大学教育学部1号館 第2会議室

講師：

事例提供

事例1：不適切な奇声をあげる10歳ASD男児に、分化強化して奇声を減らした事例
DRO(Differential Reinforcement of other behaviors)の方法について

服巻 智子 氏(心と発達の相談支援 another planet 九州・沖縄支部地域研修委員)

事例2：不潔な行動を不随意に行う18歳ASD男子に対し、

行動機能査定を実施して機能分析を行い、分化強化等消去の方法を検討する

本村 亜希子 氏（心と発達相談支援 another planet 九州・沖縄支部会員）

講 評：大元 誠 氏（佐賀大学教育学部）

研修要旨：自閉スペクトラム症のある人たちの中に、社会的に不適切な行動を取りがちで、しかも習慣となってしまうケースがある。そのような中には本人は無意識で行っている場合もあれば、意図して行っている場合もあるようだ。その行動を維持している強化子を見出し、それを操作することで問題行動を消去することが可能であることを応用行動分析学は示している。今回の事例検討会では、問題行動を維持している強化子を査定する方法として MAS (Motivational Assessment Scale) を用い、行動機能査定を実施するといった機能分析（関数分析）の方法や消去していくときの分化強化の方法等を、事例を通して学んだ。

取得ポイント：1 ポイント 参加費：2,000 円 研修参加者：17 名

長崎地区第 2 回事例検討会

WISC-IVの解釈と理解 その2

日 時：2018 年 10 月 20 日（土） 13：30 ～ 17：00

会 場：長崎県立大村特別支援学校 会議室（長崎県大村市）

講 師：

事例提供

事例 1：小学校に馴染めない 2 名の発達障害児の事例から

開 珠美 氏（長崎県立長崎特別支援学校 九州・沖縄支部地域研修委員）

事例 2：読み書きの困難さがある通常学級在籍児童への支援について

増本 利信 氏（長崎県時津町立時津北小学校 九州・沖縄支部会員）

講 評：吉田 ゆり 氏（長崎大学教育学部 九州・沖縄支部幹事）

研修要旨：WISC-IVを実施した事例を挙げ、①児童生徒の実態把握、②WISC-IVの解釈、③WISC-IVの結果から考えられる障害や病気の状態像、④対象児の指導 を検討した。

取得ポイント：1 ポイント 参加費：2,000 円 研修参加者：9 名

佐賀地区第 4 回事例検討会

コンサルテーションにおける集団指導と個別の教育支援計画について

日 時：2019 年 1 月 27 日（日） 13：00 ～ 16：00

会 場：佐賀大学教育学部 2 号館 社会科教室

講 師：

事例提供

事例 1：自閉スペクトラム症（ASD）4 歳児グループ 4 人のお集まり時の着席行動の指導

服巻 智子 氏（心と発達相談支援 another planet 九州・沖縄支部地域研修委員）

事例 2：知的障害と脳性麻痺を併せ持つ小 3 女児へのコンサルテーション

早川 志麻 氏（佐賀県立金立特別支援学校 九州・沖縄支部会員）

講 評：大元 誠 氏（佐賀大学教育学部）

研修要旨：特別支援教育の現場では、発達の問題を抱える子ども達の教育・指導において就学前施設（幼保を含む）や学校・教育委員会からの巡回相談やコンサルテーションの依頼が激増している。

事例 1 では、児童発達支援機関の自閉スペクトラム症（ASD）4 歳児グループ 4 人の

お集まり時の着席行動の指導についてコンサルテーション依頼を受けたケース。4人の問題行動と標的行動の操作的定義をしてアセスメントをし応用行動分析アプローチを用いた指導計画を立案し、児発のスタッフのトレーニングを提供したうえで多層ベースライン指導計画による綿密な指導計画を実施した。

事例2では、知的障害と脳性麻痺を併せ持つ小3女兒のケース検討を通して事例の取り組み方やコンサルテーションについて研修した。参加者を小グループに分け本事例の情報を提供し、発達論的視点からの情報の読み方、足りない情報の洗い出し、指導目標の設定へのロードマップと指導目標の妥当性検討、指導計画の立て方と担任への助言の仕方、倫理的配慮等についてコンサルテーションを担当する立場から必要な事例への取り組み方等をグループ討議した。

取得ポイント：1ポイント 参加費：2,000円 研修参加者：14名

福岡地区第1回事例検討会

事例検討会実施のガイダンスと学齢期の発達障害児の実態把握、指導内容について

日時：2019年2月24日（日） 13:00～16:00

会場：福岡女子大学 地域連携センターセミナー室3（福岡市東区）

講師：

話題・事例提供：通常学級に在籍する発達障害児への対人関係スキルの指導を行った事例

倉光 晃子 氏（福岡教育大学 九州・沖縄支部研修担当役員）

講評：堀内 ゆかり 氏（九州産業大学 九州・沖縄支部支部長）

研修要旨：福岡地区における第1回目の事例検討会として、以下の内容で実施した。

事例検討会実施のガイダンスとして、話題提供の準備の方法、話題提供者の選定方法等について支部役員研修担当より説明を行った。事例は、通常学級に在籍する発達障害児への対人関係スキルの指導を取り上げ、指導を進める留意点や指導の在り方について協議した。今後は、乳幼児期、学童期、青年期、成人期、老齢期と各ライフステージでの実践事例を取り上げ、会員個々人が生涯発達に視点を広げ現所属での臨床実践力を高めていくことをねらう。

取得ポイント：1ポイント 参加費：2,000円 研修参加者：10名

News 2 2019年度活動計画について

次年度は、重点目標を「支部内各地域での事例検討会の開催」と「全国大会の運営」と決めました。以下に現在計画中の活動についてお知らせいたします。計画を確実に実行していくためには会員の皆様の積極的な参画が不可欠です。ご協力をお願いいたします。

なお、以下の計画のうち5月11日（土）、10月27日（日）の日程は確定です。

1) 支部総会

◎定期総会：

2019年5月11日（土） 12:30～13:30 大博多ビル1120会議室（福岡市）

審議事項 2018年度活動・決算報告、2019年度活動計画案・予算案、規約改正

郵送にて総会案内を発送します。委任状は郵送もしくはFAXにて返送をお願いします。

2) 資格更新研修会

◎春季研修会：支部主催

2019年5月11日(土) 14:00~17:00

テーマは「子どもの貧困」で調整中。講師は小西祐馬氏(長崎大学)です。

講演形式にて参加者70名、ポイント手数料1,000円、1ポイントの予定です。

◎事例検討会：支部主催

福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、宮崎地区で各地区1~2回開催、計7回程度

参加者20名程度まで、ポイント手数料2,000円、0.5~1ポイントの予定です。

◎共催研修会

①北九州市発達障害者支援センターつばさ発達障害シンポジウム、北九州

2019年10月27日(日) 1,000円 1ポイント 20名程度の予定です。

②第80回九州心理学会、学会公開シンポジウム、熊本大学

2019年12月7日、8日のいずれか調整中 1,000円 1ポイント 30名程度の予定です。

③JDD ネットかごしま(現在調整中です)

参加者20名程度、参加費はJDDネットワークかごしまに納入となります。

3) 役員会

例年より1回減らして、年間6回を予定します。

4月：年度計画、運営の確認(役員)

5月：支部総会、春季研修の運営(役員・地域研修委員)

7月：全国情勢確認、活動報告、年度計画、運営の確認(役員)

10月：研修の運営、次年度研修計画(役員)

12月：全国情勢確認、活動報告、年度計画、運営の確認(役員・地域研修委員)

2月：活動報告、次年度活動計画、予算編成(役員)

開催地は、12月は熊本大学・九州心理学会会場内。その他は福岡市を予定します。

4) ニュースレター

SOLTI登録の支部会員メールアドレスに、士会HPへのニュース記事掲載を案内します。

これまでもお知らせしました通り、ニュースレターの郵送は次年度より行いません。SOLTI登録のメールアドレスや住所は会員の皆様ご自身で管理していただく必要があります。今後、重要な案内を受け取っていただくためにも今一度ご確認をお願いいたします。

支部の運営や諸手続については

九州・沖縄支部事務局 >>> 北九州市立総合療育センター西部分所 尾首 雅亮

E-mail : okb.src78@jcom.home.ne.jp FAX 093 (632) 3636